

新編

左千夫歌集

土屋文明・山本英吉選



『野菊の墓』
の作者はま
た真摯・豊
潤な歌を詠
む歌人でも
あった。「牛
飼が歌詠む

時に世の中のあらたしき歌大いに起る」は彼の代表作である。本歌集では、たえず自作の推敲に努めていた左千夫の最終表記にもとづき、彼独自の言葉づかい訛りをもそのまま採録、全歌3300余首から1526首を選んだ。(解説＝山本英吉)



緑

9-2

岩波文庫

新編 ^{さちおかしゅう} 左千夫歌集

1980年1月16日 第1刷発行 ©

1992年1月16日 第2刷発行

選者	^{つち} 土 ^{やま} 山	^や 屋 ^{もと} 本	^{ぶん} 文 ^{えい} 英	^{めい} 明 ^{きち} 吉
----	------------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------	------------------------------------

発行者 安江良介

〒101-02 東京都千代田区一ツ橋2-5-5

発行所 ^{株式会社}岩波書店

電話 03-3265-4111(案内)

定価はカバーに表示してあります 印刷・製本 法令印刷

落丁本・乱丁本はお取替いたします

Printed in Japan
ISBN4-00-310092-1

岩 波 文 庫

31-009-2

新 編

左 千 夫 歌 集

土 屋 文 明 選
山 本 英 吉

岩 波 書 店

凡 例

一、本書は、岩波書店版『左千夫全集』第一卷「歌集」の長歌・短歌・旋頭歌^{せとうか}・新体詩・俳句等の総数三三六七首から、短歌を主として、長歌一首旋頭歌を含む計一五二六首を選び収めた。

一、昭和三年七月刊行の岩波文庫版『左千夫歌集』が五八八首、三十一年十一月刊行の同増補版が六九二首であったのは、当時の底本『増訂左千夫歌集』（岩波書店昭和六年一月十日発行）の収載総数が二二二〇首であったこととともに、選者斎藤茂吉・土屋文明の厳選にもとづくものであらう。

一、本書は従前の方針を尊重するとともに、例えば明治二十四年から三十二年に至る初期の作歌経路を知る作品をはじめ、子規および親しい歌人たちとの関連を示す作品や、独特の趣味性情、また国家観・死生観・女性観など左千夫の生きかたに関連する諸作については、適宜これを採用することとした。

一、題名下に掲げた発表諸紙への掲載月日・歌会開催日・募集課題・歌の巻等に関する表示については、解説を参照願いたい。

一、左千夫の署名がほぼ確立した明治三十三年以降は、左千夫以外の名前で署名による場合

のみを挙げたが三十二年まではさまざまの署名を使用しているので、それぞれの記載通り掲げることとした。

一、解説の末尾に、春陽堂版『左千夫歌集』および岩波書店版『増訂左千夫歌集』との本文等に関する若干の校異一覧を添えた。

目 次

凡 例

明治三十二年以前

明治二十四年

消息の歌 伊藤良作宛 (一首).....	三
〔とく、剛太郎と写真をとりて〕 (一首).....	三

明治二十八年

〔蒲田観梅〕 (二首).....	二四
------------------	----

明治二十九年

消息の歌 伊藤並根宛 (一首).....	二四
----------------------	----

〔井伊直弼三十七回忌〕 (一首).....	二四
-----------------------	----

〔九十九里浜〕 (一首).....	二四
-------------------	----

紅葉 (二首).....	二五
--------------	----

年月未詳 (明治三十年乃至三十一年)

八重桜 (一首).....	二五
---------------	----

霧中紅葉 (一首).....	二五
----------------	----

〔無題〕 (一首).....	二五
----------------	----

明治三十一年

題知らず (二首)……………三六

明治三十二年

詠矢刺浦歌 (二首)……………三六

汽車のうた (二首)……………三六

明治三十三年

牛飼 (一首)……………三七

新年雜詠 (三首)……………三七

一月短歌会 (二首)……………三七

茶 (四首)……………三六

肺病なる人の妻にかはりて (一首)……………三六

森 (二首)……………三六

二月短歌会 (一首)……………三六

陶器 (一首)……………三九

三月短歌会 (二首)……………三九

〔七日会一周年記念の宴〕 (三首)……………三九

〔麓が家にて〕 (二首)……………三九

春雨 (三首)……………三〇

桜花 (十首)……………三〇

消息の歌 坂井良岐宛 (二首)……………三〇

鎌倉懷古 (六首)……………三一

消息の歌 新免一五坊宛 (一首)……………三一

庚子春竹の里人にたてまつる (七首)……………三一

曇 (一首)……………三一

〔鼠骨の入獄談を聴く〕 (二首)……………三一

芝居 (二首)……………三三

五月臨時短歌会 (二首)……………三三

〔根岸庵雨中即景〕 (三首)……………三三

読平家物語 (三首)……………三四

吉野園 (七首)	三四
再度吉野園に遊びて (五首)	三五
時鳥 (一首)	三五
七月短歌会 (一首)	三五
服部中佐戦死 (一首)	三五
酒 (一首)	三六
七月短歌第二会 (一首)	三六
消息の歌 長塚節宛 (二首)	三六
滝見の旅 (一首)	三六
滝 (六首)	三七
星 (一首)	三七
苔歌 (五首)	三七
八月短歌会 (一首)	三八
八月短歌第二会 (一首)	三八
水中之蟋蟀 (十首)	三八
九月短歌会 (二首)	三九

〔勧移居歌〕 (三首)	四〇
鬼 (一首)	四〇
九月短歌第二会 (一首)	四〇
消息の歌 赤木格堂宛 (一首)	四一
〔百花園〕 (七首)	四一
祝『日本』四千号 (一首)	四二
天長節の朝菊をよめる (二首)	四二
橋 (一首)	四二
〔通州事件〕 (一首)	四二
二荒山に紅葉を見て (十三首)	四三
〔後の月〕 (六首)	四三
十一月短歌会 (一首)	四四
〔巨石〕 (一首)	四四
月島丸の遭難を哀む (一首)	四五
冬牡丹 (八首)	四五
つり香炉の歌 (二首)	四五

〔榛黄葉〕 (六首)…………… 四

明治三十四年

雪 (一首)…………… 四

消息の歌 長塚節宛 (一首)…………… 四

寺 (二首)…………… 四

冬の月 (一首)…………… 四

梅 (一首)…………… 四

二月短歌会 (一首)…………… 四

氷乃旋頭歌 (一首)…………… 四

汽車 (一首)…………… 四

壁間にさしたる梅をよめる十章 (三首)…………… 四

神武天皇祭の日桜花を詠める (七首)…………… 四

桜 (四首)…………… 四

雨中花に対してよめる (八首)…………… 四

留学生の母にかはりて作れる歌 (一首)…………… 五〇

上総山武の山里なる鬼蛇が池を

しぬびて詠める (一首)…………… 五〇

藤 (九首)…………… 五〇

牡丹 (三首)…………… 五二

消息の歌 蕨真宛 (一首)…………… 五二

雨夜の牡丹 (十首)…………… 五二

菖蒲園に遊ぶ (三首)…………… 五三

灯 (一首)…………… 五三

〔撫子〕 (一首)…………… 五四

中村不折ぬしが歐洲に

漫遊するを送る (五首)…………… 五四

富士詣 (一首)…………… 五四

消息の歌 赤木格堂宛 (二首)…………… 五五

〔蓮の花〕 (三首)…………… 五五

鳳仙花 (一首)…………… 五五

〔門田のはちす〕 (一首).....	六
何事につけても	
正岡大人をおもふ (二首).....	六
吾家の萩 (二首).....	六
詠乳酒之歌 (一首).....	六
〔房総遊草〕 (八首).....	六

明治三十五年

初日を拝みて詠める歌 (一首).....	六
九十九里の浜に遊びて (二首).....	六
盆栽の梅 (二首).....	六
消息の歌 長塚節宛 (二首).....	六
鎌倉なる大仏をろがみて	
詠める短歌十三首 (十三首).....	六
雷叟選歌 (一首).....	六

春の歌 (六首).....	六
嘲屁奈土歌 (二首).....	六
新居の桜 (三首).....	六
〔黒楽の碗〕 (十一首).....	六
詠接骨木 (八首).....	六
東宮御巡遊之歌 (四首).....	六
〔故郷の藤浪〕 (二首).....	六
松島遊草 (二首).....	六
遊雄島作歌 (五首).....	六
八月短歌会 (一首).....	六
九月短歌会 (四首).....	六
讀正岡先生歌并短歌 (一首).....	六
十月短歌会 (三首).....	六
十一月短歌会 (一首).....	六
寒牡丹 (三首).....	六
落葉 (三首).....	六

子規子百日忌 (三首)…………… 六
亡き大人をしのぶ (二首)…………… 六

明治三十六年

御題新年海 (九首)…………… 七
横田医学士の死を悲む (三首)…………… 七
けふのゆき (二首)…………… 七
〔釜の響〕 (十首)…………… 七
河豚の歌 (二首)…………… 七
春雨 (二首)…………… 七
つくし (一首)…………… 七
四月根岸短歌会 (一首)…………… 七
花下所感 (三首)…………… 七
蛙 (四首)…………… 七
鋸山を望見して詠める歌 (一首)…………… 七

晩春新夫妻に寄す (一首)…………… 七
暮春待人 (二首)…………… 七
閑居 (二首)…………… 七
医師山氏の寿筵を
ことほぎて詠める (一首)…………… 七
初夏偶成 (一首)…………… 七
六月短歌会 (一首)…………… 七
〔岡田村〕 (五首)…………… 七
七月短歌会 (一首)…………… 七
子規先生一周忌 (一首)…………… 七
射干の花 (二首)…………… 七
吾庭之松 (七首)…………… 七
ひまわり (四首)…………… 七
〔憶高山彦九郎〕 (一首)…………… 七
傘谷庵 (四首)…………… 七
西遊日抄 (五首)…………… 七

明治三十七年

消息の歌 島木赤彦宛 (一首).....	八〇	二月短歌会 (十一首).....	八五
悲憤音 (二首).....	八〇	或女に代りてそが男なる人に 遣はしける歌 (二首).....	八六
犢鼻褌を某々諸公に献じて 其腰拔を嘲る (二首).....	八〇	四月歌会 (四首).....	八七
〔樞堂の病を憶ふ〕 (二首).....	八一	〔送出征〕 (七首).....	八七
人の許に山茶花を 乞ひやるとして (二首).....	八一	草花 (五首).....	八八
納会短歌会 (二首).....	八一	玉のゆらぎ (二首).....	八八
		正岡先生三年忌歌会 (九首).....	八九
		寺島の百花園 (八首).....	九〇
		小園秋深し (三首).....	九一
		秋晴友を懷ふ (一首).....	九一
起て：日本男児 (二十一首).....	八二	〔戦死を嘆く〕 (六首).....	九一
闇糸瓜 (二首).....	八四	十月短歌会 (一首).....	九二
春風二曲 (四首).....	八四	十一月歌会 (三首).....	九二
消息の歌 石原純宛 (一首).....	八四	山茶花 (三首).....	九三
冬籠 (七首).....	八五	旅之歌会 (十五首).....	九三

薯蕷汁 (三首) 六
初冬宿山寺 (三首) 六

明治三十八年

明治三十八年之寿歌 (十一首) 七
消息の歌 篠原志都児宛 (一首) 六
無一塵庵歌帖 (七首) 六
一月歌会 (一首) 九
消息の歌 柳本城西宛 (一首) 九
消息の歌 蕨真宛 (一首) 九
二月短歌会 (一首) 九
藪柑子 (二首) 一〇
風 (二首) 一〇
沼津小遊 (八首) 一〇
三月十七日木下川梅園を見る (一首) 一三

三月歌会 (二首) 一三
四月短歌会 (四首) 一三
牛飼 (三首) 一三
花の一日 (四首) 一三
〔戦死を悲しむ〕 (二首) 一三
草庵の若葉 (八首) 一四
無一塵庵歌帖 (四首) 一五
東京六月歌会 (七首) 一六
行々子 (十首) 一七
消息の歌 小平雪人宛 (二首) 一八
小園秋来 (七首) 一八
二緒の玉 (六首) 一九
沼津之歌会 (三首) 一〇
修善寺行 (四首) 一〇
秋声 (二首) 一一
孤独の嘆 (二首) 一二

東京短歌会 (九首)	二三	消息して (五首)	三〇
初冬雜詠 (十首)	二三	東京二月歌会 (一首)	二三
千本銀杏 (四首)	二四	埴岡短歌会三月歌会 (三首)	二三
無一庵歌帖 (十一首)	二四	舊の玉 (三首)	二三
東京十二月歌会 (十一首)	二五	消息の歌 篠原志都児宛 (一首)	二三
無一塵庵歌帖 (一首)	二七	無一塵庵歌帖 (三首)	二三
消息の歌 石原純宛 (一首)	二七	五月短歌会 (六首)	二三

明治三十九年

興国の精神 (五首)	二八	夾竹桃歌箋 (三十九首)	二四
御嶽乃歌会 (三首)	二八	蓼科激草 (二十八首)	二七
消息の歌 長塚節宛 (一首)	二九	九月歌会 (四首)	二三
無一塵庵歌帖 (三首)	二九	茂春子を哭す (四首)	二三
日知の釜 (八首)	二九	樂々亭歌会 (二首)	二三
滿洲なる上野一也が許へ		千葉之一夜 (二首)	二三
		峽中所観 (五首)	二三

明治四十年

丁未歳旦之頌 (九首)	一三四
じゃぼん (四首)	一三五
アンナ、シャエファル嬢に 寄す (八首)	一三五
釈尊降誕祭讃美歌 (六首)	一三六
勾玉日記 (三十六首)	一三六
根岸短歌会旧友会 (二首)	一四一
初夏憂愁子に寄す (五首)	一四一
森といふ題にて (五首)	一四七
〔青葉〕 (二首)	一四七
桃の玉川 (一首)	一四七
雲 (一首)	一四七
磯の月草 (七首)	一四八

明治四十一年

水籠十首 (十首)	一四八
恋嫦娥 (十首)	一五〇
竜胆 (四首)	一五〇
大御世をたゞへまつりて よめる歌 (三首)	一五一
消息の歌 望月光宛 (一首)	一五二
消息の歌 依田秋圃宛 (一首)	一五三
新年諏訪歌会 (十四首)	一五三
消息の歌 望月光宛 (一首)	一五四
北山短歌会 (六首)	一五五
恋の籬 (二十二首)	一五五
紀元節之歌 (一首)	一五七
玉の歌四首 (四首)	一五七

或女にかはりてよめる (二首)……………	一五	祝して (二首)……………	一六三
豊 (一首)……………	一五	立秋清夜吟 (五首)……………	一六三
輝 (三首)……………	一五	七夕行 (四首)……………	一六四
冬林 (三首)……………	一五	心の動き (三十首)……………	一六四
赤木格堂が外遊を送る (六首)……………	一五	子規先生七周忌 (二首)……………	一六七
一日なりとも (六首)……………	一五	不二見歌会 (七首)……………	一六七
足といふ題にて歌よみける 時に (一首)……………	一六〇	採草余香 (二十六首)……………	一六八
消息の歌 赤木格堂宛 (一首)……………	一六〇	望月光の絵に題す (一首)……………	一七二
浅間温泉歌会 (六首)……………	一六〇		
黒姫山 (十首)……………	一六一	明治四十一年	
観潮楼六月歌会 (三首)……………	一六一	御題 雪中松 (八首)……………	一七三
観潮楼七月歌会 (二首)……………	一六三	観潮楼一月歌会 (四首)……………	一七三
七月東京歌会 (三首)……………	一六三	東京短歌会一月会稿 (五首)……………	一七三
瓊乃音 (四首)……………	一六三	東京短歌会二月会稿 (二首)……………	一七三
岡千里が男子を挙げたるを		観潮楼二月歌会 (四首)……………	一七四